

■高島華宵 挿絵画家。"中将湯"の広告画が大ヒット、少女少女向け雑誌の挿絵で一世を風靡した。

たかばたけかしょう

初の対等条約1888＝

帝国憲法発布1889＝ 1歳：

愛媛県宇和島で、小間物屋兼生糸仲介商を営む高島和三郎の第三子に生まれる。本名幸吉。

母の影響で絵を描くことに興味、女性の髪型・衣裳などを教えられ、就学前の祭礼のスケッチも残る。

日清戦争始・1894＝ 6歳：宇和島尋常小学校に入学。

八幡製鉄始・1897＝ 9歳：

子規句歌革新1898＝10歳：宇和島尋常高等小学校に進み、

教科書疑獄・1902＝14歳：卒業。脚気で一時帰省。大阪に上り、親戚宅に寄宿して、新進花鳥画家平井直水に入門、内弟子となる。
日比谷公園・1903＝15歳：京都市立美術工芸学校日本画科に入学するが、
日露戦争始・1904＝16歳：父が急死したため、一旦退学して平井直水の塾に戻り、花宵と号した後、
日露戦争終・1905＝17歳：再入学。上本町教会で受洗。友人から借りたギリシャ美術画集に感激し、洋画に興味を持つ。
満鉄発足・1906＝18歳：学資援助を受けるため、遠縁の高島久吾の養子となり、関西美術院に入学するが、寺崎広業の画風に興味を抱き、上京。

韓国反日暴動1907＝19歳：久留島武彦のお伽劇団に参加、巖谷小波・錦木清方らと交流、養家に知れ絶縁状態。徴兵検査で帰省。

アヲチ創刊・1908＝20歳：兄から餞別貰って再上京するも、お伽劇団は解散されていたため、木賃宿に滞在して肉体労働に従事。

伊藤博文暗殺1909＝21歳：東京美術大学教授で彫刻家の豊田兼吉の書生となり、寺崎広業の画塾に入るも、学資続かず中断。

韓国併合・1910＝22歳：*神保町の救世労働宿舍で生活しながら修業に励むうち、中堅商店から図案意匠の仕事が舞込むようになり、華宵と改号。津村順天堂の"中将湯"の広告を手がけ始めると大ヒットとなり、一軒家を借りる。

明治天皇没・1912＝24歳：

大正政変・1913＝25歳：

*「講談倶楽部」"新作浪花節逆賊ネロ"の挿絵から講談社の仕事が始まり、まもなく華宵の名も掲載され、増刊号「浪花十八番」の口絵・カット・挿絵全て一人で手がけるに至る。

第一次大戦始1914＝26歳：

21ヶ条要求・1915＝27歳：

民本主義・1916＝28歳：

ロシア革命・1917＝29歳：

ベルサイユ条約・1919＝31歳：

大暴落・1920＝32歳：

原敬首相暗殺1921＝33歳：

水平社結成・1922＝34歳：

関東大震災・1923＝35歳：

護憲三派圧勝1924＝36歳：

{面白倶楽部}に続いて、平凡社の{コドモ}にも執筆が始まり、内弟子数人を同居させるようになる。

{中央新聞}連載の新聞小説の挿絵を描き、浅草オペラや活動写真に興味を持ち、

{婦人倶楽部}{現代}に執筆開始。油彩による自画像を描く。

キンノツノ社「金の船」に執筆開始。

関東大震災で、一時千葉県飯岡海岸に移住。{少女倶楽部}や東京社{少女画報}に執筆開始。

*「講談社との間で画料問題がこじれ"華宵事件"となり、実業之日本社{日本少年}に執筆始めると、{少女倶楽部}読者の多くが{日本少年}に移るほどで、鎌倉一の谷に"華宵御殿"を建ててに至る。

*実業之日本社{少女の友}{婦人世界}ほか{婦女界}にも執筆開始。時事新報の久米正雄の新聞小説「晴夜」の挿絵や{週刊朝日}{三越}など引く手あまたとなり、村田社からキャラクターグッズの先駆となる"華宵便箋"が発売されると、爆発的人気呼び、追隨して発売する会社も次々登場。

大阪朝日の新聞小説「奔流」の挿絵を描き、成海堂{少女の国}に執筆開始。

流行歌「銀座行進曲」中に"華宵好み"の語。

「華宵抒情画集」「華宵愛吟詩画集」が刊行される。銀座松屋デパートのショーウィンドーに美人画。

円本時代始・1926＝38歳：

共産党事件・1928＝40歳：

世界恐慌・1929＝41歳：

満州事変・1931＝43歳：

五一五事件・1932＝44歳：

国際連盟脱退1933＝45歳：

帝人疑獄事件1934＝46歳：

芥川直木賞始1935＝47歳：

日中戦争始・1937＝49歳：

健保+総動員 1938＝50歳：

*「明治からの女性風俗変遷を、60人の美人とともに六曲一双屏風「移り行く姿」に描き、代表作になった。

久しぶりに講談社{少女倶楽部}に挿絵を描く。

日米開戦・1941＝53歳：

・1942＝54歳：

年金+総武装 1944＝56歳：元内弟子を華見と号させて養子にする。

敗戦・1945＝57歳：敗戦後は、

新憲法施行・1947＝59歳：故郷宇和島で個展開催し、翌年にかけて、米子・松山でも個展開催。

極東裁判決・1948＝60歳：この年から刊行の講談社の絵本シリーズの「小公女」など数冊を手がけ、

独立回復・1951＝63歳：

この間、偕成社や講談社の世界名作全集の挿絵を描くなどしていたが、

美智子妃・1959＝71歳：新天地を求めて渡米、ハワイを経て、

安保闘争・1960＝72歳：ロサンゼルスに移り、養子華見とともに個展を開催し画学校を開設するが、

タイタイ病始・1961＝73歳：事故に遭った華見をアメリカに置いて帰国、生活も困窮し、

東京初上 1964＝76歳：兄の勧めで、兵庫県の明石愛老園に入る。旧ファンに励まされながら、再び制作に意欲を示し、

大学紛争始・1965＝77歳：明石天文科学館で「華宵名作回顧展」開催。旧ファンの弁護士鹿野琢見により{華宵会}も発足するが、

いざなぎ景気1966＝78歳：脳血栓となり、没した。